屋久島永田浜　−ウミガメを守る人々−

日本一ウミガメが産卵に来る浜で、保全活動をする人たちに取材をしました。

ユースが全国各地で湿地を取材、魅力を発信！ Youth Research Project

鹿児島県屋久島の北西部にある「永田浜」は2005年に貴重なウミガメの産卵地としてラムサール条約に登録されました。今回のユースリサーチプロジェクトでは2017年６月２日～４日の日程で屋久島へ行きました。産卵のために上陸するウミガメが日本で一番多い永田浜で見たウミガメの産卵は感動的でした。６月３日の世界環境デーに合わせて行われた清掃活動に参加して、他の参加者にインタビューを行ない、ウミガメを守る人たちの「今」を知りました。ほかにもヤクスギランドで屋久杉の巨木を観察。西部林道で屋久島を代表する哺乳類であるヤクシマザル、ヤクシカを観察するなど、屋久島の自然を体感しました。

基本情報

登録範囲：10ha（「永田浜」は永田集落にある「前浜」、「いなか浜」、「四ツ瀬浜」を総称して呼ばれます。）
登録年：2005年11月
ベストシーズン：ウミガメの産卵が見られるのは4月上旬から8月。雨季になるので、傘が必要です。

ウミガメとうみがめ館の魅力

屋久島永田浜の１番の魅力はウミガメです。永田浜にはアカウミガメとアオウミガメが産卵のため上陸しますが、特にアカウミガメの上陸数は日本一で、日本全体の30～40％を占めています。私たちは屋久島うみがめ館の日高さんにウミガメの生態や永田浜で行なっている保全活動について聞きました。観光客や車が浜を通ると圧力で砂に埋められてる卵が圧力で割れてしまったり、砂が固められて子亀が生まれたあとに出てこれなかったりすることや、子亀は光のある方向に向かっていくため夜は陸地を暗くしなければいけないことなど、永田浜集落の人たちはウミガメと共に生活していることを知りました。

次の日の早朝から民宿「いなか浜」のご主人である岩川さんに案内していただき永田浜のいなか浜へ行きウミガメの産卵を見ることができました。後ろ足を器用に動かして穴を掘り、ピンポン球のような卵を産み落としていきます。多い時には、長さ1ｋｍの浜に一晩で100頭以上が産卵に来ることがあるそうです。産卵しているときに、ウミガメの保全を行っているレンジャーたちはウミガメの体長や甲羅の大きさを測り、ヒレに個体を識別するためのタグをつけます。レンジャーはその作業を一晩中行うそうです。ウミガメの個体数がわかったり、無事に子亀たちが海へ帰っていけるのは、レンジャーたちの取り組みが大きいことを実感できました。

Youth Interview ~清掃活動参加者へのインタビュー ~

「2017 世界環境デー in いなか浜　屋久島・ウミガメの浜を守れ」

ユースリサーチプロジェクト（YRP）では、毎回訪れた湿地で出会った方にインタビューをしています。その現地だからこそわかることや、人の思いを知り、発信します。

今回は「2017 世界環境デー in いなか浜　屋久島・ウミガメの浜を守れ」に参加したボランティアの方にインタビューをしました。どんな人が参加しているのか、またどんな思いで参加しているのかなどをお聞きしました。

◆ 20代後半 通信高校教諭 男性（鹿児島市在住）

ユース　清掃活動に参加したことはありますか？
男性　毎年参加しています。
ユース　観光客が増えることについてどう思いますか？
男性　観光客が増えることに対しては反対です。ウミガメを守ることだけに焦点を当てれば砂浜を立ち入り禁止にしてしまうのもありかと思います。でもそれも仕方ないのではないでしょうか。

◆ 女性 小学校教員（屋久島在住）

ユース　今この永田浜では多くのウミガメたちが困っています。その原因はなんだと思いますか？
女性　護岸の開発が大きいと思います。ゴミもあるけれど、地元では捨てません。海外からくるゴミが大きな要因になっていると思います。
ユース　いなか浜を観光資源とするか、うみがめの保護をしていくために制限するかどちらがいいと思いますか？
女性　砂浜の全面立ち入り禁止は、外から来た人が砂浜の状況を知ることができません。だからある程度解放して、現状を知ってもらう必要があると思います。

◆ 小学３年生の女の子（屋久島在住）

ユース　安心してウミガメが産卵するにはどうすればいいと思いますか？
女の子　ゴミを自分たちで拾うこと、車の光を減らすこと、産卵中にしずかにすることだと思います。

◆ 60代女性

ユース　今日だけでなく、毎日のように、ゴミ拾いはしていますか？
女性　気がついたらすぐに拾っています。
ユース　安心してウミガメが産卵するにはどうすればいいと思いますか？
女性　海岸がきれいであることや砂浜が大きいことも大切です。産卵を邪魔する人をなくしたいです。キツネやタヌキがウミガメの卵を食べてしまうこともあるからそれも防ぐようにすることも重要だと思います。

人の出したゴミだけでなく大きな木々も拾います。

ユースのインタビューでは10人以上からお話を聞きました。

YRJおすすめ観光プラン！

湿地満喫「ラムルート」

①屋久杉ランド
で自然を体感

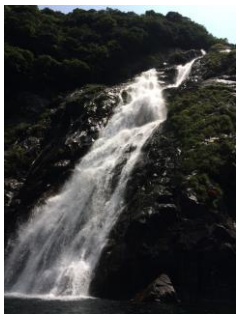
②屋久島うみがめ館
でウミガメを知ろう

③近くの民宿「いなか浜」
で夕日を観ながら一泊

③日の出前にレンジャー、いな
か浜の主人と共にウミガメを
観に砂浜へ

④シュノーケリングで海から
ウミガメを見よう

⑤西部林道で屋久島の生き物と出会う



⑥屋久島にある滝巡りで
水の豊かさを実感

⑦環境省の屋久島世界遺産
センターで歴史を知ろう

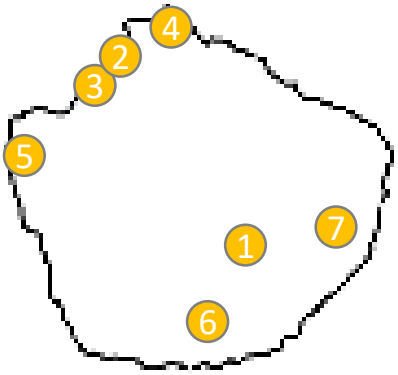
場所情報

① **ヤクスギランド**
入林協力金：300円（高校生以上）
電話：0997-42-3508

② **屋久島うみがめ館**
休館日：火曜日
電話：0997-49-6550
料金：中学生以上：300円
※2018年12月に閉鎖予定

③ **民宿いなか浜**
１泊２食付　大人：8,800円
朝にうみがめを観たい方は、民宿のご主
人が案内してくださいます（無料）
事前にお問い合わせください
電話：0997-45-2233

④ **屋久島世界遺産センター**
料金：無料
開館時間：9:00～17:00
電話：0997-46-2977



参加者感想

劇団シンデレラ　根岸奈央さん

屋久島やウミガメを写真などでは見たことがありましたが、屋久島の景色だったり、ウミガメの産卵だったり実際に見ることができ、写真や言葉では伝えきれない感動や空気を感じることができました。そして表現することは難しいと思ったからこそ、実際に体験した私たちが正確に確実に伝えることの大事さを感じました。

日本最大のウミガメの産卵地なのに、ウミガメ調査や卵の移植をするスタッフ不足ということにとても驚きました。この今のウミガメ館の現状をもっと多くの人に知ってもらい、活動に参加してもらいたいと思いました。

また、インタビューの中での多かった意見が、「知ってもらうことから始める」というもので屋久島の方々は、他の人に知ってもらいたいという思いを感じるほど、地元にとても誇りを持っていました。子どもたちも大人の方も真剣にウミガメの保護について考えていました。しかし今回のようなイベントがないと、なかなか自分から動くことが難しいと思います。誰しも、自分の生活は大事ですが、ウミガメの保護について知るだけでなく、そのあとどう行動に移していくのかといったことも大切なんだと知りました。

劇団シンデレラも公演をしました！

ウミガメ保全の現状や、人の生活にウミガメがどんな影響を与えているのかを歌や劇で伝えました。ＹＲＪも劇団シンデレラの活動に協力しています。

ユースリサーチプロジェクト　ー屋久島永田浜ー
実施：2017年6月2日-4日（発行2018年6月23日）　取材・発行：ユースラムサールジャパン
TEL／FAX 052-446-8489
E-mail　youth.ramsar.japan2015@gmail.com
URL　http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/
Facebook　www.facebook.com/youthramsarjapan

本報告は「地球環境基金」の助成により作成しました。